



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

第三八四号

大雪 たいせつ

十二月七日

内宮の御池 みいけ

内宮神域をはじめ、周辺は今ちようど「紅葉かつ散る」頃。木々の葉が紅葉しながら、一方で雨や風で同時に散るさまをいう季語です。晩秋の「色葉散る」、初冬の「紅葉散る」という季語に比べ、なんともいえない風情を感じることはです。十一月二十三日の新嘗祭は雨が時折本降りになる一日で、まさしく紅葉の盛りでありながら、散るという風情でした。

内宮神域にある御池をご存じでしょうか。近頃、若い女性たちがSNSにアップし、注目されている場所です。正宮でお参りしたあと、神楽殿を右折し、神馬が時折いる御厩へ至る裏参道の途中にある池です。手水舎もあります。人の気配も少なく、静かな水面は空や周囲の木々を映していて、どこか神秘的な感じがするので以前から気になっていました。神域の谷水が集まるため池のようで、ここから細い水路となり五十鈴川へ注ぎます。参道では火除橋がかかっています。この「内宮御池」について、神宮司庁に問い合わせたところ、由緒を記した古文獻はないものの、江戸時代初めの絵図にはすでに描かれており、古くからあったことがうかがえるとのこと。そして、江戸時代には内宮の神苑一帯の民家の生活用水にあてられていたという説もあるそうです。たしかに江戸時代は宇治橋の内にもずらりと家が建ち並んでいましたから、生活用水として使われていたことも充分考えられます。

そして今は、毎年、神宮消防隊の合同の出初め式で、この御池の水を使い、放水訓練を行っているといっています。防火用水として使われていたのです。神域の歴史がうかがえる池でもありました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『歳の市』

おかげ横丁では、しめ縄作りやもち花づくりなど、昔ながらの正月迎への風習に触れる、お正月のことはじめ「歳の市」を開催いたします。

古くから神社仏閣のご祭神やご本尊に縁のある“縁日”には、市が開かれますが、中でも年の瀬12月に盛大に行われる市を「歳の市」といいます。正月用品が並べられ、日本人にとって1年の締めくくりと新年のことはじめとして、古くから大切にされている催しです。

おかげ横丁「歳の市」で福をお持ち帰りいただき、晴れやかな気持ちで新年をお迎えください。

日時／12月10日(土)～12月28日(水) 10:00～17:00

場所／おかげ横丁一帯

※雨天および諸事情にて、中止または内容が一部変更になる場合がございます。

● お正月の支度市

新年を気持ちよく迎えるために欠かせない、しめ縄など招福縁起の飾りものやお年賀として準備しておきたい品々を取り揃えます。

日時／12月8日(木)～25日(日) 9:30～17:00

場所／赤福 本店別店舗

● お正月のもち花飾り作り

1年の五穀豊穡を願う縁起ものとして日本各地に伝わり、お正月飾りに彩りを添えるもち花。白餅と黄色味を帯びた粟餅を使い、伊勢らしく華やかすぎない生成りの美しさが特徴のもち花を作ってみましょう。

日時／12月17日(土)～19日(月) 11:00～16:00 ※所要時間約40分

場所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

料金／1,500円(税込)

● お正月のミニ門松作り

門松は、今では正月の飾りもののように思われていますが、もとはといえば歳神の依代(よりしろ)といわれ、神霊が下界に降りてくる時の目標物と考えられていました。

机の上や玄関口に置ける小さな門松作りを体験していただきます。

日時／12月17日(土)～19日(月) 10:30～16:00 ※所要時間約30分

場所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

料金／一基 1,000円(税込) 一門 1,900円(税込)

お問合せ／おかげ横丁総合案内 TEL0596-23-8838

五十鈴塾

○『徒然草における伊勢像～文学と歴史の接点～』

兼好法師が十四世紀に著した『徒然草』を題材にして、そこに描かれた伊勢像を考えてみます。第二十四段の「齋王の野宮におはしますありさまこそ」や第五十段の「伊勢国より、女の鬼に成りたるを」などの文学を通して日本文化史を読んでみませんか。

このお馴染みの古典文学を「伊勢」という視点から見直してみたい方は、ぜひご参加ください。

日時／12月16日(金) 13:30～15:00

講師／クリストファー メイヨー (皇學館大学文学部教授コミュニケーション学科)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場所／五十鈴塾右玉舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

ゆず
柚子

柚子は、古くから日本人の暮らしの中で親しまれてきた柑橘類です。その素晴らしい香味をお届けします。村雨生地仕立ての彩りも爽やかな一品です。

ほがき
干し柿

伊勢路の家々の軒下に吊るされる干し柿は、初冬の風物詩のひとつです。柿餡を餅生地で包み、干し柿の姿をそのまま写し取りました。

ふゆ
冬なごみ

師走のきびしい寒さの庭に千両万両の赤い実が目にとまります。二色のきんとんで粒餡を包みました。心なごむ冬の情景です。